

アジアモンスーンに関する国際シンポジウムのお知らせ

標記シンポジウムが気象研究所と東京大学の主催、日本気象学会の後援で開催されます。

(* 科学技術庁特定調査研究「アジアモンスーン機構の研究」による)

期 日：1992年9月21日(月)～25日(金)

場 所：筑波研究交流センター(茨城県つくば市)

シンポジウムテーマ：

アジアモンスーンに関係した気象・水文・海洋分野の研究および国際協同研究計画。

参加申込：

参加登録費は無料です。

現在、申込用紙の配布および発表論文の受付を行っています。

申込(アブストラクト)締切は、7月末日です。興味をお持ちの方は、事務局まで御連絡下さい。

事務局(窓口)

〒305 つくば市長峰 1-1

気象研究所・台風研究部

村上勝人(電話：0298-51-7111 内線 519)

FAX：0298-51-1449)

もしくは

〒104 中野区南台 1-15-1

東京大学・海洋研究部

中村晃三(電話：03-3376-1251 内線 277)

FAX：03-3377-3395)

編集後記：仕事の手を休めレーザーレーダー塔6階の窓から見下ろすと、プラタナスの若葉が爽やかです。つくばが一年中で一番きれいになる季節がやってきました。

職場環境のせいかマスコミのせいか、近頃、気象学まわりが悉く「地球規模の」という接頭語に修飾されているような強迫観念をいだかされています。ふと不安になって改めて最近の『天気』の論文のタイトルを振り返ってみましたら、こちらのほうは微気象からローカルな気象、グローバルな気象・気候問題まで幅広い分野の論文が掲載されていることがわかり、少しほっとした気持ちになりました。

地球規模の気象・気候問題が重要な問題の一つであることはいうまでもありませんが、それはそれとして、『天気』には幅広い気象学の分野における研究の進歩の様子を伝えていく場としてますます発展して欲しいと思います。現在、「90年代の気象学への手引き」という項目の副担当をしておりますが、ここにはさまざまな分野に活躍していらっしゃる研究者の方々が最新の研究につ

いて熱心に執筆して下さっています。特にこれから新しいことを始めようとしていらっしゃる若い会員の方、研究分野を拡張しようとしている会員の方はぜひご活用下さい。

(高藪 縁)

印刷所の工程上のミスで、4月号のNEWS欄の月平均500mb天気図の等高線と地図の色が逆になっておりました。おわび致します。

また、既にお気づきのことと思いますが、4月号の巻末に挿入してあります「天気」送り状が新しい形式になっております。編集委員会では今後はこの送り状を使用して、原稿の管理を一層注意深く行うことを計画しております。原稿を編集委員会宛に送付される場合には、この新しい形式の送り状をご使用下さい。送り状を必要とされる場合には、編集委員会事務局にご請求下さい。送付いたします。

(編集委員長)